

関西外国語大学日本語教育実習について —平成 25 年度報告—

鹿浦 佳子

要旨

平成 2 年度より関西外国語大学留学生別科（以後、関西外大留別）での日本語教育実習（以後実習）を行ってきた。平成 24 年から中宮キャンパスにおいて実習演習が加わり、平成 24 年度より秋学期のみ年 1 回の実習をおこなうようになった。本報告書は関西外大留別での実習生の報告書と実習の問題点を報告する。

【キーワード】 関西外国語大学、留学生別科、日本語教育実習生、実習報告

1. はじめに

平成 25 年度の実習生 5 名の実習報告書を記載し、問題点、改善点を報告する。

2. 実習報告書

2.1 実習期間、実習の担当クラス

平成 25 年度秋学期の実習生は 4 回生 3 名、科目等履修生 2 名の計 5 名であり、実習の担当クラス、実習期間は次の通りである。

	氏 名	担 当	担当クラス
実習期間 [11 月 4 日 (月) ~11 月 22 日 (金) 土、日、祝日を除く 15 日間]			
1	4 回生 A	教員 A	SPJ3ABC
2	4 回生 B	教員 B	SPJ3FG
3	4 回生 C	教員 C	SPJ1ABC
4	科目等履修生 A	教員 D	SPJ2ABC
5	科目等履修生 B	教員 E	SPJ2DEF

2.2 平成 25 年度の実習生の実習報告

(A. 実習時 と B. 実習期間中)

1. うまくいった点・よかった点。なぜうまくいったかを分析。
2. 問題点（うまくいかなかった点）とその原因を分析、自省。
それに対する解決策は。
3. その他の感想。プログラムに関する意見。

実習生 1

1.A. 実習時：3 クラスともほぼ教案通りの時間配分で授業を進めることができました。この点に関しては、普段から授業で、学習者の日本語のレベルを観察していたことや、事前にリハーサルをしていたことがうまくいった理由だと思います。

B. 実習期間中：学習者がすぐに私の顔を覚え、授業以外でも話かけてくれたので、授業実習も、あまり緊張せずにできました。人の名前を覚えるのが苦手な私ですが、授業に来る学生には挨拶をし、宿題返却の際に、名前を呼ぶことを意識しました。

2.A. 実習時：学習者の誤用をうまく訂正できませんでした。「あ、これは誤用だな」と気付くものの、「どうしてそんな誤用をしてしまうのか」「本当は何を言おうとしているのか」がすぐにわからずに、うまく説明できずに授業を終えてしまいました。この誤用が起きたのが、授業終了 3 分前くらいだったのもあり、「今から詳しく説明すると終わらない。どうしよう。」という焦りから、あやふやしたまま終わ

ってしまいました。自分ができる授業実習はその1回しかありませんが、やはり誤用をそのままにしておくのは良くないので、後日改めて説明すれば良かったと思います。

B. 実習期間中：学部の授業も忙しく、なかなか Language Table に参加できませんでした。また、宿題添削や授業準備等に追われて、控室にはいるものの、学習者の質問に答える余裕がなく、他の実習生に頼ってしまうことがありました。タイムマネジメントをもっと意識的にすれば良かったと思います。また、午後に学部の授業がいくつかあるために、午前の日本語の授業終了後に添削する宿題を預かって、夕方までに終わらすことが出来ないことが何度かありました。そのような際には、担当の先生にも迷惑をかけてしまうので、あらかじめしっかり話しておくべきだったと思います。

3. その他の感想。プログラムに関する意見。

日本語教育実習は本当に良い機会だと思います。普段、50分の授業を自分1人で担当する機会なんてほとんどないと思いますし、日本人学生を学習者と思って模擬授業をするより、本当の学習者を目の前にして行う授業の方が様々なことを学べます。自分が予想もしていなかった誤用をしたり、文化の違いから起こる意識的なギャップ等も知ることができました。学部で日本語の授業を履修している学生に比べると、実際に実習をする学生は本当に少ないですが、少しでも日本語教員に興味があるのなら、ぜひ実習を試みることを勧めます。確かに大変で、学習者の大切な授業の時間を借りるので、責任感も必要ですが、様々なことを学べることは確かです。

実習生2

1. うまくいった点・よかった点。

普段から留学生と接しており、彼らの興味・関心があるものがわかっていたので、知的好奇心を刺激できるような教材を作ることができた。また、毎日担当の先生とのミーティングの時間をいただいたので、教材、授業作りの際のアドバイスをすぐにいただくことができ、何度も授業実践までに教案を練り直すことができた。

2. 問題点（うまくいかなかった点）とその原因を分析、自省。

授業の実践中に学生の発言1つ1つに耳を傾けることができず、全員にコメントを返すことができなかった。緊張のために学生の言葉が耳に入ってこなかったためである。大勢の人前に立つことに慣れて発言を拾い上げることができるようにしたい。

3. その他の感想。プログラムに関する意見。

プログラムの間に学部授業の公欠が出なかったため、先生の授業の見学にいけないことがしばしばあった。実習期間中に公欠がでるようにしてほしい。実習生全員の授業風景を全員で見る機会があると、より一層学べる機会になった。自分の授業を他の先生に見ていただき、フィードバックを受ける機会があればより多くのことを学べた。

実習生 3

1. A. 実習時、実習期間中にうまくいった点、良かった点。

実習時：文法の流れを上手く説明できた。学習者が新しく学ぶ文法事項なのでしっかりと説明が出来るように、話さなければいけないことを全て教案に書き出し練習することで納得できる説明が出来たのだと思う。

難しいと学習者が感じないよう学習者の既習事項は質問しながら授業を進めていくことで、教師が一方的に教えるのではなく学習者とのやりとりのある授業ができたと思う。

B. 実習期間中：担当の教授とほぼ毎日ミーティングを行うことで、模擬授業への準備はもちろん、教授の授業を見学するにあってもそれぞれの学習者の特徴や、語彙の種類、また日本語教育についても質問できる機会を持つことができた。教育実習だけでなくその後に活かせることがたくさん学べた。

2. 問題点とその原因

A. 実習中：応用練習での説明不足と未習事項の単語の使用によって、学習者が活動内容を上手く理解できなかったこと。応用練習でインフォメーションギャップを用いた内容の活動であったが、それ以外にもいくつかペアで決める項目を用意した。

活動の場面を例で見せ、その後補足の説明を行った。しかし説明中に未習単語いくつか使用したことで、学習者は私が指示したことをきちんと理解できず、結果応用練習中に何名かの学習者に再度説明する事になった。活動を上手く行うための説明をきちんと出来なかったことで、活動自体が上手く回らなかったことが残念であった。

3. その他の感想。プログラムに関する意見。

学部の授業で行う日本語の模擬授業とは全く違う反応が返ってきて、学習者の生の反応がどんなものかを見ることができた。私は日本語がわかっているので学部の模擬授業では新しい文法事項を教えることだけにとらわれていた。しかし、学習者の日常生活（日本で生活でどのようなことをするかなど）や既習事項を把握しておかないと、ただ教師の一方的な授業になってしまうと感じた。日本語を話せるのと日本語を教えることは全く違うことだと気づき、学習者に説明するためには自分がきちんとその文法を理解していなくてはならないため、日本語の文法の意味を考えるきっかけになった。3週間がとても濃い毎日であった。

実習生 4

1. うまくいった点

授業計画を作成して実施したが、クラスの雰囲気や反応に応じて質問の量や話す内容を変更した。ロールプレイの発表をしてもらったとき、役になりきってもらった様子こちらからお題を出したところ、クラスの反応が良く、みんな進んで発表してくれた。笑いが起こると学習者は意欲的に取り組めると感じた。

2. 問題点

全てパワーポイントで授業をするのは面白くないと思い、手作り教材を用意したが、教室で使用するのには小さすぎた。使用しなかった情報もあり、余計見づらくなった原因でもある。パワーポイントであれば見やすく、途中で内容を変更することもできるため、始めからパワーポイントを使用すれば良かったと思った。

緊張していたこともあるが、学生の発言に対するコメントの引き出しをもっと用意しておくべきだった。ビデオを見ると「いいですね」ばかり言っており、言わな

くていい所でも「いいですね」と言っていた。

3. その他

教師が言った内容を学生が繰り返す際、正しい音の補助として私も学生と一緒に繰り返す様心がけた。補助として役に立つのか、コーラスの部分は自力で言わせるべきなのか分からなかったが、実習中の3週間は他の先生方の授業でも実践した。

2週目ではなくて3週目に実習授業ができると、2週間先生方の授業を多く吸収出来たのではないと思う。1週目は授業が少なく、2週目すぐに実習授業だったため、授業見学があまり出来ないまま教案作成に入った。

実習生 5

1. 上手くいった点

A. 実習時

約2週間、担当の先生の授業を見せていただき学習者の様々な反応が見られたため、教案作成時も、学習者が興味を持ちそうな文やコンテキストを考えることができました。実際の実習の場でも笑いが起き、教室にいい雰囲気をつくれました。

3時間の模擬授業でしたが、毎時間自分で授業を改善していきました。本来なら修正せずに初めからいい授業をしなければいけないのですが、毎時間気づく箇所があり、指示の出し方や問題数など少しずつ修正していき、3時間目に一番良い授業をすることができました。

B. 実習期間

色々な先生の授業を見学させていただき学んだ点を共有していたので実際に見学させていただきたかったけれど時間の都合などで見学できなかった先生の授業も少し知ることができました。

大きいパソコン室を控室として使用させていただいたので、教材の準備や教案作り、黒板を使って模擬授業や印刷などがとても簡単に行えたのでよかったです。

2. 上手くいかなかった点

A. 実習時

時間配分がうまくできず、最後に用意していた応用練習ができませんでした。こ

れに対し、学習者の質問の時間や、考える時間をもっと考慮して時間に余裕ができるくらいの教案を考えなければいけないと思いました。

復習のパートで、初めから難易度が少し高いものを入れたため、学習者が混乱している様子も見られ、リズムよく復習ができませんでした。原因は、復習なので+a も入れてインプット効果を図ろうとしたのですが、初めから+a の文を使うことで、学習者の負担になり、スムーズに復習ができなかったことだと思います。解決策は、復習では先日やったことではあるけれど、基本から入り授業初めのいいリズムを

作るという点を考慮して教案を作成するべきだったと思いました。

B. 実習期間中

Language Table の運営がうまくいきませんでした。Sign-Up の方法や、実習生の教室の場所の移動、受付時間、具体的に活動内容を明記していなかったことなどに問題があったと考えます。改善点として以下を考えます。

- ・どこか留学生みんなが通る場所に Sign-Up シートを張る。(例えば、交流部3階の掲示板、1階の Mail Box 付近)
- ・ Sign-Up の期限をもう少し長くもうける。(今回は前日1時まででした)
- ・実際にどんなことが Language Table でできるのか

4. まとめ

今回、英語の実習同様、実習中の他の授業の公欠を認めてほしいという希望が目立ったが、日本語プログラムとしては、もちろん認めたい立場であるし、実習の日だけは認めている。但し、教員の立場として3週間続けて授業を休むと学生自身の授業への遅れに繋がるという懸念も理解できる。解決策としては、実習生に日本語クラスが行われる午前中に極力、授業を履修しないよう努めてもらうことである。もし、どうしても履修しなければならない授業があるならば、午後に取りようにお願いしたい。セメスター制になった現在では、面接時の7月の時点では、秋学期の履修科目が決定していないが、面接時にそのことを指導したい。

また、指導教員の組み合わせも、学生の履修科目の決定をみてから決定するようにする。そうすることにより学生と教員のスケジュールのコンフリクトを極力避けることが出来ると思われる。

実習簿も従来の実習生の心得、実習の記録や反省・コメントを載せるだけではな

く、教案作成や実習時のヒントになるような改定版を作成予定である。

関西外大留別では、実践力のつく、質の高い「日本語教育実習」を提供し、外大との提携校である海外の大学に即戦力となる TA 派遣を行い、日本語教員の経験と実績を積む道筋を設けている。将来日本語教員を目指す人材をより多く日本語教育の世界に送り出すために、今後ともこの体制を維持できるよう実習プログラムの改善に努力したい。

参考文献

鹿浦佳子(2011)「関西外大日本語実習報告書一片銚・中宮キャンパスでの概要と報告一」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』第 21 号 pp.71-88

鹿浦佳子(2012)「関西外国語大学日本語教育実習について一報告と問題点一」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』第 22 号 pp.135-159

(shikaura@kansai-gaidai.ac.jp)